

より人に優しい医療衛生事業へ

北京外国語大学学生代表

見学日時：2013年5月30日（木） 10:00－13:15

見学場所：テルモ株式会社 神奈川県

見学概要

5月30日午前、「走近日企・感受日本」の我々訪日団一行は、テルモ株式会社のテルモメディカルプラネックス(テルモ総合医療トレーニングセンター)を訪れた。見学に先立って開かれた簡単な説明会で、我々はテルモ株式会社と世界に一つしかないこのトレーニングセンターについて一定の理解ができた。



テルモ株式会社は1921年に設立され、取扱商品は使い捨ての医療用機器、輸血用器具、医薬品類や栄養補助食品、血管造影および治療用ガイドワイヤー、医療用電子機器、人工心肺関連製品など幅広いラインナップを取り揃えており、世界150カ国以上で高いシェアを持っている。テルモ社は独自の技術によって、患者にとってより優しく快適な医療プロセスを追求し、最先端技術の応用によって医療処置に伴う痛みや不快感の大幅な軽減を実現している。テルモ社は、最高基準を満たす医療製品の開発に長年の努力を積み重ねてきた結果、その製品の安全性や精密さのみならず、患者の良好な回復と生活の質(QOL)の維持においても最高水準に達している。

私たちが見学したテルモメディカルプラネックスは神奈川県に位置し、建築面積は14000平方メートルあり、医療従事者たちの医療技術とテルモ社の製造技術によって新しい医療技術の開発を目指した施設である。このセンターは



「イースト」と「ウエスト」で構成されている。ウエストにはエックス線造影室や簡単な設備を備えた手術室が設けられており、イーストにはホスピタルスタジオおよび各種の医療シミュレーターが揃っている。この棟では、血管模型やバーチャル環境による最先端の医療トレーニングや静脈注射などの基礎的なトレーニングができるだけでなく、技術開発や製品開発も行われ、さらに関連セミナー、学術会議や意見交換会なども開催されている。2009年には、この研究施設に研修やトレーニングおよび見学で訪れた医療関係者は1万人を超え、2002年に開設されてからは、この施設への訪問者数は4万人を超えている。

メディカルプラネックスにあるホスピタルスタジオには、手術室、病棟、ナースステーションなどの設備が整えられており、実際の病院機能がリアルに再現されている。他にも10台を超えるビデオカメラが、現場にいるトレーニング参加者の手や腕の動きをモニタリングできるだけでなく、室内全体の状況もモニタリングすることで、後に参加者各々の動作や全体的な作業の流れに対して細部に至るまで徹底的な検証と評価がなされ、トレーニングの参加者全員が自分自身の課題や犯したミスを明確に理解できる仕組みになっている。それゆえ、この施設では医療現場で生じる恐れのある多くの課題に関して実践トレーニングを施すことができ、医療事故を未然に防ぎ医療の安全性を向上させるうえで多大なる貢献をしている。



知っていますか？

今回の見学では、非常に斬新な印象を受けた。医療に対して私たちはもしかしたらテレビドラマや病院で受けたイメージに留まっているのかもしれないが、実のところ、簡単な機器や手術に隠れたエピソードは少なくない。私たちと共にその真相に迫ってみることにしよう！

1. テルモ社とはどんな企業か？

テルモ株式会社は、医療機器開発や医薬品製造の大手企業である。同社は、使い捨ての医療用器具や輸血用器具、医薬品や栄養補助食品、血管造影および治療用ガイドワイヤー、医療用電子機器、人工心肺関連製品、輸液用ポンプ、注射用ポンプ、輸血用ポンプ、麻酔用ポンプ、目標制御注入法 (TCI) 専用ポンプ、検査用品、家庭用ヘルスケア関連製品など多種多様なラインナップを取り揃えている。

2. テルモ社は医療製品においてどんな実績を残しているか？

- 1963年 国産の使い捨て注射器を日本で初めて発売
- 1969年 国産の血液袋を日本で初めて発売
- 1973年 国産のソフトバック入り輸液剤を日本で初めて発売
- 1982年 世界に先駆けてホローファイバー型人工肺を発売
- 2007年 世界初の磁気浮上型左心補助人工心臓 (DuraHeart) を欧州で発売

3. テルモメディカルプラネックスはどんな役割を果たしているか？

- a) 医療従事者のトレーニング
- b) 商品開発の新拠点
- c) テルモ社員の教育拠点
- d) 企業ブランドおよびシリーズ商品のイメージアップを目的とした展示センター

4. テルモ社は中国国内の拠点をどこに構えているか？

テルモ(中国)投資有限公司(北京)、テルモ医療産品(上海)、テルモ中国(香港)、長春工場、杭州工場
販売ネットワーク拠点(長春、瀋陽、済南、西安、成都、武漢、南京、杭州、台北、広州)

5. テルモ社による治療への取り組み

目的:患者の身体的負担を極力軽減し、医療によって社会貢献に尽くすことをモットーとする。

セールスポイント:患者の身体的負担を軽減することによって、手術が可能な患者を増やすことができ、入院期間の短縮や手術費負担額の軽減を実現。テルモメディカルプラネックスでは、医師を対象に手術に関するトレーニングを行い、手術の精度を高める一助となっている。

感想

短い午前の一と時だったが、施設の見学だけでなく、グループ毎に注射や心臓血管の疑似手術など普段ではめったにできない体験をすることができた。私たちはガラスを隔てて、医学生たちがどのように医師へと成長するのか、その過程を垣間見ることができた。また、長い年月をかけて目標に向かってひたすら打ち込む姿勢は、我々一人ひとりにとって非常に大きな励みになるとともに、医療業務に求められる厳しさを身にしみて感じた。またテルモ社の作業室や事務棟などの施設を含む周辺環境は、採光が良く緑が豊かで、テルモ社の人に対する優しさの一面をうかがわせるものであった。今後私たちが彼らの真摯な姿勢を鏡とし、今の生活のみならず将来社会人になった時にもその姿勢を貫き、中国の医療衛生事業をさらにワンランクアップさせられるように力を尽くしていきたい。

